

原爆関係の慰霊碑等の概要(南区内)

平成27年2月 広島市平和推進課

地区 小学校区 中学校区	名称 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注)	建立者	建立経緯・来歴等
荒神町01 段原01	松原地区(荒神学区)町民慰霊碑 1968年8月5日 南区松原町12番(福屋広島駅前 店南、猿猴川河岸緑地)	慰霊	荒神学区 住民有志	1968年、駅前地区の再整備が行われ、緑地帯ができたのを機に、地区の住民で市内中心部に建物疎開作業に出ていて犠牲となった人に加え、地区で亡くなった人などを慰霊するため、町内会により碑が建立された。毎年8月6日、前の川で慰霊のため、灯ろう流しが行われている。
段原01 段原02	的場地区町民慰霊碑 1957年5月19日 南区的場町一丁目10番(荒神橋 西詰北、猿猴川河岸緑地)	原爆慰霊碑	的場町原 爆慰霊碑 建設委員 会	1946年、焼け跡にバラックを建てて住んだ地区の人々が原爆の犠牲になった町民の供養を行った。毎年近くの寺などで供養を行ううち、碑建立の声が上がり、募金活動を経て建立された。犠牲となった町民67人の名前が下部に刻まれている。毎年8月6日、碑の前で追いの盆踊りが行われている。
段原02 段原03	妙詠寺原爆死歿者供養塔 1994年7月24日 南区松川町3番1号(妙詠寺境内 墓地)	原爆死歿者供養塔(正面) 被爆五十回忌法要之砌 建立 平成6(1994)年7月24日 法流山妙詠寺 開眼主顕本法華宗管長 総本山妙法寺第303世 協賛 顕本法華宗 総本山 妙満寺(側面)	妙詠寺	被爆50回忌を前に碑が建立された。
段原03 段原04	広島郵便局原爆殉職者の碑 1953年8月6日 南区比治山町7番10号(多聞院境 内、正門入って右)	広島郵便局原爆殉職者之碑	慰霊碑建 設委員 会	当時、広島郵便局舎は爆心地である島病院の道路向かいにあり、在局舎全員が犠牲になった。犠牲者には、動員中の祇園高等女学校(現在のAICJ中学・高等学校)と本川国民学校高等科(現在の中学1、2年生が通う学校)の教師・生徒55人も含まれる。碑は1953年、現在地に移設された。背面に、犠牲者288人の名前が刻まれている。なお、この碑と同様に広島郵便局職員の犠牲者を慰霊する碑として、「広島郵便局職員殉職の碑」(中区)がある。さらに、広島郵便局など郵政関係職員の犠牲者を慰霊する碑として、「郵政関係職員慰霊碑」(中区)がある。
段原04 段原05	殉職警察職員慰霊碑 1949年9月23日 南区比治山公園3番(ひかり茶屋 手前)	此の碑はもと水主町旧武徳殿前に存し、昭和20年8月6日の原子爆弾に破壊されたが、英魂を永えに鎮めその芳名を千載に伝うべく、県下警察職員の総意によって此の地を選んで再建する。時はこれ昭和24年秋分の日である(背面)	殉職碑建 設委員 会	当時、水主町(現在の加古町)には、広島県庁(爆心地から850メートル)や県病院があった。この碑は殉職した警察職員を慰霊するため、武徳殿(県庁構内にあった武道場)前にあった。占領政策を受けて1946年に政府が出した方針(学校及び公共用地等にある忠魂碑等の撤去)に伴い、現在地に移設された。背面下部に殉職者441人(うち原爆犠牲者354人)の名前が刻まれている。
段原05 段原06	消防職員殉職碑 1950年11月 南区比治山公園3番(ひかり茶屋 手前)	この碑は元水主町旧武徳殿前に存し原爆に被災倒壊せるを此の地に移築再建したものである。昭和25年11月 広島県消防殉職碑建設委員会(背面)	広島県消 防殉職碑 建設委員 会	当時、水主町(現在の加古町)には、広島県庁(爆心地から850メートル)や県病院があった。この碑は殉職した消防職員を慰霊するため、武徳殿(県庁構内にあった武道場)前にあったもので、原爆により倒壊し、3つに割れた。占領政策を受けて1946年に政府が出した方針(学校及び公共用地等にある忠魂碑等の撤去)に伴い、1950年、現在地に移設され、それに合わせて原爆犠牲者も合祀された。
段原06 段原07	船舶通信隊補充隊特別幹部候補 生鎮魂の碑 1975年8月 南区比治山公園6番(陸軍墓地 内)	友よ安らかにねむれ 兄等修羅の巷に逝きて30年 祖国存亡の秋に 少年学徒の身をもって馳せ参じ 人類史上例をみない被爆によってこの地にねむる 瀕死の身をいとわず友の安否を訪ねし兄等混迷のままに痛恨の思いをのこして散華せし友よ 兄等ののこした痛哭の思いは 生きのびた吾等の心に今なおうづく ここに同期の友等相集い 兄等在りし日の至純を追慕しいまわの声を継承してとわの平和を誓う 安らかにねむれ 若き友よ(正面) 由来記 船舶特別幹部候補生は 第2次大戦の末期 風雲急を告げる戦局打開のため志願応募した学徒少年兵で 若潮部隊と称されていた。主力は海上挺進戦隊として小型舟艇に爆雷を搭載し 先輩は比島及び沖縄に出撃千有余名の者が散華していった 船舶通信隊補充隊特別幹部候補生隊は小豆島での基礎教育後広島に転属 ㊠と称した輸送船舶の通信要員として 千田町国民学校を宿舍にして教育を受けていた8月6日 朝の点呼中校庭で被爆 帰営中の三期生を含め 全員が重軽傷を負い特幹隊は壊滅の状態に陥ちた 各施設に収容されたものの 終戦の混乱で治療もままならず 旬日のうちに幾十名の者が散華していった。昭和45年以来生存者有志相集い これら友の惨死を風化させるにしのびず 相はかりて還らざる友の冥福を祈り あわせていまわの声を継承し とわの平和を誓って鎮魂の碑を建立するものである。昭和57年8月吉日 元船舶通信隊補充隊特別幹部候補生隊・若潮千通会有志一同建之(背面)	元船舶通 信隊補充 隊特別幹 部候補生 隊・若潮千 通会有志	船舶特別幹部候補生は、第2次世界大戦末期、戦局打開のため志願応募した学徒少年兵だった。小豆島での教育後、広島に転属され、千田国民学校(現在の千田小学校。爆心地から約1.7キロメートル)を宿舍として教育を受けていた。8月6日朝、点呼中、校庭で被爆し、帰営中の三期生を含めて全員が重軽傷を負った。碑の背面には、犠牲者45人の名前が刻まれている。
段原07 段原08	中国軍管区司令部殉職の碑 1965年 南区比治山公園6番(陸軍墓地 内)	昭和20年8月6日殉職 中国軍管区司令部故陸軍少将倉繁三蔵外102柱追悼之碑	比治山陸 軍墓地保 存協賛会	当時、広島城を中心とする基町一帯は、軍の施設が集まる一大軍事拠点で、その中心ともいえる中国軍管区司令部の庁舎は広島城の本丸と二の丸に置かれていた。原爆により、軍関係者のほか、通信業務に動員されていた比治山高等女学校の生徒・教員も犠牲となった。なお、軍関係者と比治山高等女学校の犠牲者を慰霊する碑として、「中国軍管区司令部軍人・軍属・動員学徒慰霊碑」(中区)がある。

原爆関係の慰霊碑等の概要(南区内)

平成27年2月 広島市平和推進課

地区 小学校区 中学校区	名称 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注)	建立者	建立経緯・来歴等
段原08 段原09	段原地区町民慰霊碑 1959年8月6日 南区段原三丁目1番(大正橋西詰南、猿猴川河岸緑地)	原爆慰霊碑	段原本通商店街、段原大畑町町内会、段原東浦町上組町内会、同下組町内会、段原新町上組町内会、同下組町内会、段原末広町町内会、段原中町上組町内会、同中組町内会、同下組町内会、南段原1丁目町内会、段原日出町町内会、段原山崎町町内会、段原本通商店会	比治山の爆心地の反対側に位置する段原地区は、家屋の倒壊も少なく、火災も発生しなかった。しかし、建物疎開作業のため雑魚場町(現在の国泰寺町一丁目。爆心地から1.2キロメートル)に動員された地区住民など、地区内では約800人が犠牲になった。こうした犠牲者を慰霊するため、きのこ雲に似た形の石で碑を建立した。碑の横に山本康夫氏による「原爆に あまた逝かせし なげきのみ うづきてやまずきのふのごとく」という歌碑がある。毎年8月6日、前の川で慰霊のため、灯ろう流しが行われている。
比治山01 段原10	広島市立第一高等小学校・第一国民学校慰霊碑 1990年7月31日 南区霞一丁目3番30号(段原中学校内、正門入って左)	被爆教師と生徒の碑 一高会原爆慰霊碑建設委員会 旧広島市立第一高等小学校 旧広島市立第一国民学校	一高会原爆慰霊碑建設委員会	広島市立第一高等小学校(現在の段原中学校)は1941年、第一国民学校に改称した。同校の教職員・生徒671人のうち、150人余りが昭和町(爆心地から1.5キロメートル)で建物疎開作業中に被爆し、負傷者が続出したが、正確な死亡者数はつかめていない。また、軍需工場に動員されて犠牲になった生徒も多いと言われている。教職員・生徒の消息を明らかにしようと、元教師と卒業生らが「一高会」を結成し、調査を開始するとともに、合わせて碑建立の募金運動を行い、碑を建立した。建立時までには判明した犠牲者は教職員11人、生徒51人である。2011年、段原中学校の移転に伴い、現在地に移設された。 ※学校休校日は見学不可。見学時間は8時30分～17時。正門入って正面の事務室で見学したい旨を連絡
皆実01 翠町01	仏立寺原爆供養塔 1967年5月 南区比治山本町4番15号(仏立寺境内)	原爆供養塔	仏立寺	原爆で亡くなったすべての犠牲者を慰霊するため建立された。
皆実02 翠町02	電電搬送通信部関係職員慰霊碑 1950年1月30日 南区比治山本町11番20号(NTT DATA比治山ビル前庭)	広島や 一灯もなく 天の川(正面) この碑は、原爆直後に広島搬送電気通信工事局員52名の慰霊の為に、当時の局長中井秀基氏の自筆の句を刻んだもので、原子爆弾で亡くなられた友に贈る思慕の碑であり平和への祈りです。「夜が来ると、暗い屋上に身を横たえては、仏の数を数えるようになった。―その仏の行方を追うかのように― 星が小さくまたたいて数が増えていく空の下で、それから、銀の星が嬉しいもの一つとなった。」多くの人々の平和のために、この碑の祈りを永く語りつづけた。 昭和62年8月 NTT電信搬送関係者有志 NTT中国ネットワーク支社(台座)	生存職員有志・遺族会	当時、広島搬送電気通信工事局は、市役所南隣り(現在の国泰寺町一丁目。爆心地から1キロメートル)にあり、52人が犠牲となった。碑が建立された当時、役所内に慰霊碑を建てることは好ましくないという上層部の意向により句碑となった。建物の建て替えに伴い、1987年、現在地に移設された。 ※見学する場合、事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を電話(082-563-5060)で)
皆実03 翠町03	進徳高等女学校職員生徒慰霊碑 1959年8月3日 南区皆実町一丁目1番58号(進徳女子高等学校内、正門入って右の講堂の南)	波羅密多	進徳学園	当時、進徳高等女学校は南竹屋町(爆心地から1.4キロメートル)にあった。同校は、原爆により学校内にいた2年生を中心に多くの犠牲者を出した。 ※見学については要相談(事前に文書で見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を明記し、〒734-0007南区皆実町一丁目1番58号 進徳女子高等学校あて提出。後日、回答)
皆実04 翠町04	市立皆実小学校職員児童同窓生慰霊碑 1981年12月1日 南区皆実町一丁目15番32号(皆実小学校内、正門入って右)	いしぶみ 昭和56年12月1日建立(正面) 同窓生死没者並びに原爆死没者の先生・児童のみたまを弔う。本校創立60周年記念事業の一つとして同窓会が建立する(背面)	皆実小学校同窓会	皆実国民学校(現在の皆実小学校。爆心地から2.2キロメートル)では、当時学校にいた教師・児童を始め十数人が犠牲となった。また、1944年、1945年の同校卒業生の多くが市内中心部で建物疎開作業に出動中、亡くなったと思われる。 ※見学する場合、事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を電話(082-251-2358)で)

原爆関係の慰霊碑等の概要(南区内)

平成27年2月 広島市平和推進課

地区 小学校区 中学校区	名称 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注)	建立者	建立経緯・来歴等
皆実05 翠町05	広島高等師範学校附属中学校原爆死没者・戦没者慰霊碑 2005年4月17日 南区翠一丁目1番1号(広島大学附属小学校・中学校・高等学校内、正門入って右)	母校の創立百周年にあたり、戦争とりわけ原子爆弾によってあたら前途有為の人生を奪われた諸霊に対し、深甚なる弔意を捧げ碑を建立する 平成17年4月17日広島高等師範学校附属中学校 広島大学附属中、高等学校同窓会 アカシア会 原爆死没教職員 岡本恒治外7名 原爆死没元教職員 高橋悦郎外6名 原爆死没生徒 加藤恭三外18名 原爆死没アカシア会員 正岡一薫外66名 戦没元教官 寺田角一外2名 戦没アカシア会員 本村秀夫外121名(背面)	アカシア会	広島高等師範学校附属中学校では、在校生19人を含む学校関係者101人が原爆の犠牲者となった。建立者のアカシア会は、広島大学附属中・高等学校の同窓会である。 ※見学する場合、10日前までに事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を電話(082-251-9881)で)
翠町01 翠町06	市立第三国民学校慰霊塔 1946年8月1日 南区翠四丁目15番1号(翠町中学校内、テニスコート右)	為昭和20年8月6日之戦災斃職員生徒児童210名。依遺族之寄附建之。昭和21年8月1日建之。	長屋裕智氏(当時の教師)および遺族	広島市立第三国民学校(現在の翠町中学校)では、雑魚場町(現在の国泰寺町一丁目。爆心地から1.2キロメートル)で建物疎開作業をしていた教員・生徒を始め、多くの犠牲者を出した。 ※見学する場合、事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を電話(082-251-7448)で)
大河01 翠町07	比治山高等女学校職員生徒慰霊碑 1961年11月 南区西霞町5番16号(比治山女子中学・高等学校内、B館横の池の南)	ペンを預け たゞすじに 捧げたる 若きみ魂を 永久に偲ばむ(正面) 昭和20年8月6日散華 動員学徒職員75名 於中国軍管区司令部其他 昭和36年11月建之 比治山学園(背面)	比治山学園	比治山高等女学校では、原爆による犠牲者のほとんどが、広島城本丸内の中国軍管区司令部(爆心地から790メートル)で通信業務に動員されていた3年生と教員だった。1、2年生は市内中心部に建物疎開作業に出動するため、学校(爆心地から2.9キロメートル)に集合していて、難を逃れた。碑は校内の庭園の中に庭石のように設置されている。 ※見学する場合、事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を電話(082-251-4478)で)
大河02 翠町08	県立広島工業学校職員生徒慰霊碑 1962年5月 南区出汐二丁目4番75号(県立広島工業高等学校内、正門入って左)	雨の日も風吹く夜半も 鎮もりて み魂よまもれ わが学び舎を	県工同窓会	広島県立広島工業学校の生徒210人は、4人の教師の引率の下、建物疎開作業のため、中島新町(現在のの中島町。爆心地から600メートル)に出動中被爆し、全滅した。また、当時同校は、千田町三丁目(爆心地から2キロメートル)にあり、倒壊した校舎の下敷きになって亡くなった生徒もいた。碑の横には、明治時代に建てられたレンガ造りの広島県職工学校の校門が建っている。
大河03 翠町09	大河地区町民慰霊碑 1981年8月6日 南区北大河町23番8号(大教寺境内、鐘楼隣)	慰霊	大河文化財保存会	大河地区は比較的被害が少なかったが、当時、市内中心部にいて犠牲となった住民もいる。被爆証言運動が盛んになる中、地域の犠牲者を明らかにしようという機運が高まり、碑が建立された。横に名録碑があり、原爆死没者84人(直後の死没者79人と3年以内の死亡者5人)と戦没者92人の名前が刻まれている。
楠那01 楠那01	日宇那原爆慰霊碑 1952年 南区日宇那町13番6号(光明寺境内)	原爆慰霊碑(正面) 昭和27年建立(背面)	日宇那町内会	日宇那・楠那地区は比較的被害が少なかったが、当時、市内中心部にいて犠牲となった住民もいる。そうした犠牲者を慰霊するため、1952年に木碑を建立し、1981年8月に石碑を再建した。1952年以来毎年8月6日早朝、地元有志による慰霊祭が行われている。
宇品東01 宇品01	金輪島原爆死没者慰霊碑 1998年8月2日 南区宇品町金輪島170番地の1(金輪島トンネル出入口付近)	御霊安かれ 1945年8月6日、広島に原子爆弾が投下され、街は一瞬のうちに破壊し、熱線に焼かれて跡形もなくなった。市民は熱線と放射能で即死、又は全身に火傷を負って逃げまどった。そのうち約500人位が金輪島に運ばれ、暁部隊の方などに助けられ、看護を受けた。負傷者は血だらけで、手をにぎると皮がつるとむげ、水をくださいと叫びながら、次々に恐怖と苦悶の中で息絶えたという。同年8月15日、ついに終戦して戦火はやんだ。今日、広島は平和都市として復興し、我々は平和の恩恵を受けているが、この平和は50余年前不幸にして戦火の中に亡くなられた方々の犠牲の上に築かれたものである。この碑を建てることにより、金輪島で息絶えられた方々の御霊を慰め、共に平和を守る気持ちを新たにしたいと思う。(正面) 平成10年8月2日建之 金輪島原爆慰霊碑建立委員会(背面)	金輪島原爆慰霊碑建立委員会	平和再来の機縁となった原子爆弾による犠牲をいつまでも心にとめ、また、戦争が人類にとり悲惨な結果をもたらすことを若い世代にも末永く伝えるため、遺族等による募金により碑が建立された。
宇品01 宇品02	宇品地区町民慰霊碑 1966年8月 南区宇品海岸一丁目2番22号(コスタ宇品南)	①原爆犠牲者慰霊之像(正面) 人類の破滅の危機を防ぎしぞ 霊安かれとここに祈羅む 酌熱の地獄のうめき 許せねぞ 平和の日々を送るよろこ飛。 弥陀のもとあなたも君も我も行く あゝ美しきなむあみだぶつ 見ず聞かず何んにも云えず知りもせず ただひたすらに弥陀の御許え。 私の本日あるも父母乃恩 山より高く海より深し。 1966年8月(側面・背面) ②原爆犠牲者慰霊(正面) 永遠の平和祈念願 永遠の原水爆禁止(台座)	浜田一氏	原爆で亡くなった人々を慰霊するため、個人が建立した。建立者の父親も原爆の犠牲になった。

原爆関係の慰霊碑等の概要(南区内)

平成27年2月 広島市平和推進課

地区 小学校区 中学校区	名称 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注)	建立者	建立経緯・来歴等
似島01 似島01	似島慰霊碑 1972年11月 南区似島町(似島中学校横)	昭和20年8月6日 広島市は人類最初の原子爆弾によって 一瞬のうちに20数万人の死傷者を出した 負傷者は各所に避難し ここ似島にも1万人余におよぶ人々が収容され 応急看護の甲斐もなく死亡 者が続出し 混乱のなかとはいえ一部は仮埋葬のままでこの地に眠り悲しくも20有6年の歳月が過ぎ た 昭和46年11月 はからずもこの地から遺骨が発見され推定517柱を発掘し 原爆供養塔に合祀し た ここに1周年を迎え 諸霊の冥福を祈り平和への誓いを新たに して この碑を建立する。 昭和47年 11月 広島市長山田節男(背面)	広島市	1971年11月、似島中学校農業実習地から推定517体の遺骨と推定100体分の骨 灰、その他の遺品が発掘された。1972年11月、原爆で亡くなられた御霊の冥福を 祈り平和の誓いを新たに するため、碑が建立された。1990年9月には、旧陸軍馬匹 検疫所焼却炉跡からスコップ300杯分の骨片、骨灰が発掘された。さらに2004年 には、推定85体分の遺骨と65点の遺品が発掘された。これらの発掘された遺骨は、 平和記念公園内にある原爆供養塔に納骨され、遺品は平和記念資料館に保管さ れている。
似島02 似島02	旧陸軍運輸部馬匹検疫所焼却炉 の遺構碑 1991年2月 南区似島町(広島市似島臨海少 年自然の家東)	旧陸軍運輸部馬匹検疫所焼却炉 この遺構は、平成2年(1990年)9月、ここから約600m南にある似 島住宅用地内で発掘された旧陸軍運輸部馬匹検疫所(軍馬の検疫・消毒を行う施設)の焼却炉の一 部を移設したものです。 昭和20年8月6日、広島市は人類最初の原子爆弾によって一瞬のうちに壊 滅し、多くの死傷者を出しました。この年の12月末までに約14万人の人が死亡したと言われていま す。 ここ似島にも、約1万人の負傷した原爆被爆者が収容されましたが、 応急看護のかいもなく死亡 者が続出し、その遺体がこの焼却炉においても火葬されたものです。 ここに、原爆による被害の悲 惨さを後世に伝えるとともに、恒久平和実現への誓いを新たに して、この遺構を保存します。 平成3 年(1991年)2月 広島市	広島市	1945年8月に推定一千体の遺体を焼いたとされる旧陸軍馬匹検疫所の跡地の馬 体焼却炉(現在、広島市似島住宅)を1990年9月に発掘調査し、原爆死没者の骨片 を収集した。1991年、市民の要望により馬体焼却炉の一部を現在地に移設保存し た。
似島03 似島03	原爆被爆者診療の地の碑 1978年5月3日 南区似島町(広島平和養老館前)	原爆被爆者診療の地(似島臨時野戦病院) 昇天の霊よ永久に安らかなれ 旧暁6165部隊は昭和16 年7月広島にて編成以来病院船に乗組み主に南方方面の傷病兵を輸送診療に従事していたが最後 にこの地に於て野戦病院を開設し1万人に及ぶ原爆被爆者を診療看護して復員する 旧暁6165部隊 (病院船衛生53班) 西村幸之助外生存者 昭和53年5月3日建立	旧暁第 6165部隊 西村幸之 助氏ら生存 者	1945年7月、暁部隊所属の病院船衛生第14班、53班を含む船舶衛生隊が似島検 疫所に本部を移して間もなく、原爆投下による負傷者が検疫所に収容された。臨時 野戦病院に指定された似島検疫所に配置されていた病院船衛生隊第53班も被爆 者の治療、看護にあたった。この歴史的事実の伝承と慰霊のため当該地に碑が建 立された。

(注)原則、漢数字は算用数字で表記しています。